



高付加価値日本酒にシフトした老舗酒造メーカーの挑戦を支援

課題 遅れる多様化する市場ニーズへの対応

豊國酒造合資会社は、江戸時代の天保年間に創業した老舗の酒造メーカー。伝統の酒づくりの技術を継承する一方、新銘柄の開発にも積極的で、同社の「東豊國」は全国新酒鑑評会で平成19年～平成27年まで9年連続で金賞受賞という全国屈指の実績を誇る。9代目後継者の入社を機に高付加価値日本酒を軸とした日本酒の製造にも取り組んできた。

5年前からは製造から出荷までの工程の改善に着手。福島県ハイテクプラザと連携し、酒質も向上しつつあるものの、日本酒のニーズが年齢や性別によって大きく変わる現在、嗜好の変化に十分対応できないなどの問題も抱えていた。特にニーズに対応した製造設備の整備が十分とはいえず、そのためにせっかくの新規商品も酒質が安定しないために安定供給が実現できない状況にあった。その背景には単年度の製造計画しか立てておらず、長期的な設備投資計画をつくっていないことが要因と思われた。

消費者のニーズとしてはとくに限定商品や高付加価値日本酒の需要は首都圏を中心に高く、それに伴い海外からの問い合わせも増えている。こうした市場の変化に対応するためにも、普通酒と高付加価値日本酒の製造比率の見直しを行うとともに、高付加価値日本酒の製造量増にともなう酒質の安定化が大きな課題となっていた。

支援 中期計画の作成で生産と業績の安定を目指す

こうした同社の課題解決に向けて、石川方部商工会広域連携協議会では「3年間の経営計画と設備投資計画の作成」「ニーズの再調査による商品開発とさらなる販路開拓へ向けた情報発信の実施」「新たな市場への参入に向けた製造から出荷まで通年での対応方法を検討」という3段階の支援を実施することにした。

この取り組みにより、同社は初めて計画書を作成。事業のスケジュールリングがとても重要で計画の進行状況と内容を見直しすることにつながり、より効果が見られた。同時に現状の課題を解決することにより、製造販売と販路開拓に必要な新たな課題の抽出につながり、自社商品の需要ニーズの確認につながっている。



日本酒の瓶詰め工程の様子

業績も大きく拡大し、支援開始当初（平成26年）の売上高に比べ、現在はおよそ1.5倍に増加。生産性も向上し利益率の向上に成功した。

加えて売れる商品づくりによって新たな販路が見えてきており、価格と利益率の高い高付加価値日本酒の製造比率を高めることにより、売り上げの増加とさらなる商品開発につながった。また、前述の取り組みを行ったことにより、新たな販路と製造から出荷までの課題が抽出でき、今後の売り上げ拡大につながる経営計画の作成を行うことができたことで、長期的な成長も期待されている。

支援の経過

期間	支援内容
H26年2月	3年間の経営計画と設備投資計画の作成支援
H27年4月～	ニーズの再調査と商品開発と販路開拓実施
H28年	持続化補助金の申請支援
H29年1月	製造出荷工程の見直し、販売計画策定支援
H27年5月～ H30年3月	ものづくり補助金の申請および実施支援

会社概要

会社名：豊國酒造合資会社
 住所：福島県石川郡古殿町竹貫字竹貫114
 電話番号：0247-53-2001
 URL：http://azuma-toyokuni.com/
 代表者名：代表社員 矢内定紀
 創業年：1830年（天保元年）
 従業員数：6名
 商工会名・担当者名：石川方部商工会広域連携協議会 藤田達夫